

(変更後の定款)

特定非営利活動法人長崎県マンション管理組合連合会 定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人長崎県マンション管理組合連合会と称し、略称を NPO 法人長管連とする。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を長崎県長崎市に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 この法人は、長崎県内のマンションにかかわる管理組合、団体、県民等幅広い人々に対してマンションの管理運営、建物及び施設の保全に関する支援を行うことにより、適正なマンション形成によるまちづくりの推進に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- 一 消費者の保護を図る活動
- 二 まちづくりの推進を図る活動
- 三 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事 業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に掲げる事業を行う。

- 一 マンションの適正かつ合理的な管理運営のための指導、相談及び支援事業
- 二 マンション管理に関する経験交流、情報交換及び資料の提供事業
- 三 法律相談会、研修会、講演会、展示会等の開催事業
- 四 建物の維持管理、保全に関する指導、相談及び支援並びに優良業者の紹介事業
- 五 大規模改修及び建て替えに関する指導、相談、支援並びに専門家・優良業者の紹介事業
- 六 大規模改修及び建て替えに関するコーディネート事業
- 七 ニュース・出版物の刊行に関する事業
- 八 マンション管理に必要な物資の共同購入事業
- 九 まちづくりの推進を図る団体への支援、助言及び連携事業
- 十 その他、目的達成に必要な事業

第3章 会 員

(種 別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という）上の社員とする。

- 一 正会員 この法人の目的に賛同して入会した分譲マンションの管理組合及びその法人（以下「組合」という）又は管理組合活動に関心を持つ個人
- 二 賛助会員 この法人の事業を賛助する個人及び企業・団体

(入 会)

第7条 この法人に正会員として入会しようとする者は、会長が別に定める入会申込書により、会長に申し込むものとし、会長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

- 2 賛助会員として入会しようとする者は、会長が別に定める入会申込書により、会長に申し込むものとし、理事会の承認を得なければならない。
- 3 会長は、前2項のもの入会を認めないときは、速やかに理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定めるところにより、入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- 一 退会届の提出を行ったとき
- 二 本人が死亡し、又は会員である組合等が消滅したとき
- 三 継続して1年以上会費を滞納したとき
- 四 第11条の手続きに基づき除名されたとき

(退 会)

第10条 会員は、会長が定める退会届を会長に提出して、任意に退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の決議により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- 一 この定款又は細則に違反したとき
- 二 この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費その他の抛出金品は返還しない。

第4章 役員等

(種別及び定数)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

一 理事 10名以内

二 監事 1名

2 理事のうち、1名を会長、2名を副会長とし、また、事務局担当理事を置くことができる。

(選任等)

第14条 この法人の役員は、総会において、正会員のうち次の各号に掲げる者の中から選任する。

一 組合の管理者（法人である管理組合にあっては、代表理事）

二 組合から推薦された当該マンションの区分所有者及び役員経験者

三 この法人の理事会が推薦した者

2 会長及び副会長は、理事の互選により選任する。

3 役員のうち、それぞれの役員について、その配偶者もしくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 会長は、この法人を代表し、その業務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときまたは会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる職務を行う。

一 理事の業務執行の状況を監査すること

二 この法人の財産の状況を監査すること

三 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること

四 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること

五 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること

(任期及び補欠役員の選任)

第16条 役員の任期は、2年とする。但し、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
- 3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- 一 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められたとき
- 二 職務上の義務違反、その他役員としてふさわしくない行為があったとき

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を遂行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、会長が定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。

- 2 職員は、会長が任免する。

第5章 総会

(会議)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- 一 定款の変更
- 二 解散
- 三 合併
- 四 事業計画及び活動予算並びにその変更
- 五 事業報告及び活動決算
- 六 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- 七 入会金及び会費の額
- 八 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第50条においても同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- 九 事務局の組織及び運営
- 十 その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

- 一 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき
- 二 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき
- 三 第15条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき

(招集)

第25条 総会は、第24条第2項第3号の場合を除き、会長が招集する。

- 2 会長は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から4週間以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開催することができない。

(議 決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決する。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

一 日時及び場所

二 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

三 審議事項

四 議事の経過の概要及び議決の結果

五 議事録署名人選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2名以上が署名又は記名、押印しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

一 総会の決議があったものとみなされた事項の内容

二 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

三 総会の決議があったものと見なされた日

四 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- 一 総会に付議すべき事項
- 二 総会で議決した事項の執行に関する事項
- 三 その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- 一 会長が必要と認めたとき
- 二 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき
- 三 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき

(招集)

第34条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長は、第33条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から7日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決する。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、第36条第2項及び第38条第1項第2号の適用について、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事に加わることができない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

一 日時及び場所

二 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）

三 審議事項

四 議事の経過の概要及び議決の結果

五 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2名以上が署名又は記名、押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

一 設立当初の財産目録に記載された資産

二 入会金及び会費

三 寄付金品

四 財産から生じる収益

五 事業に伴う収益

六 その他の収益

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、会長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計とする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、会長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、会長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講ずることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、会長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年6月1日に始まり翌年5月31日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数に

よる議決を経なければならない。

ただし、以下の事項については、所轄庁の認証を受けなければその効力を生じない。

- 一 目的
- 二 名称
- 三 その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- 四 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁の変更を伴うものに限る。）
- 五 社員の資格の得喪に関する事項
- 六 役員に関する事項（役員の定数に係るものを除く。）
- 七 会議に関する事項
- 八 その他の事業を行う場合には、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- 九 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る。）
- 十 定款の変更に関する事項

（解 散）

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- 一 総会の決議
 - 二 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - 三 正会員の欠亡
 - 四 合併
 - 五 破産手続開始の決定
 - 六 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第53条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、解散時の総会において議決された地方公共団体に譲渡するものとする。

（合 併）

第54条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経て、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第10章 雑 則

(細 則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、会長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

会 長	三 浦 正 俊
副会長	村 本 貴 司
副会長	西 脇 金 一 郎
理 事	松 尾 則 夫
理 事	竹 田 博 明
理 事	高 木 将 而
理 事	住 永 俊 之
理 事	重 野 藍 子
監 事	木 下 克 己
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成21年7月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、成立の日から平成21年5月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
 - 一 正会員
 - ア 組合
 - ① 入会金 10,000円
 - ② 会 費 10,000円+50円×戸数
 - イ 個人
 - ① 入会金 10,000円
 - ② 会 費 5,000円
 - 二 賛助会員

① 入会金 20,000円

② 会費 20,000円

但し、任意団体「長崎県マンション管理組合連合会」の会員が引き続きこの法人に加入する場合は、入会金を免除する。

附 則

この定款は、平成24年12月19日から施行する。

附 則

この定款は、平成25年 月 日から施行する。